

令和2年度決算を審査 コロナ禍初の決算

コロナ対応や災害対応などに総額250億円余の補正予算
財政調整基金約50億円を投入

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症がまん延する中、雇用を守る雇用調整助成金や市民生活を守る特別定額給付金、各種給付事業など感染症から市民を守るとともに経済を下支えする対応、加えて令和2年7月豪雨がもたらした大規模な災害からの復旧など、当初予算の2分の1を超える補正予算が組まれた異例の決算審査ということもあり、各常任委員会で詳細な論点整理や視点の確認を行い、審査に臨みました。審査の結果、認第1号の令和2年度高山市一般会計歳入歳出決算は起立多数で、残りの認定案件8件は全員一致で認定すべきものと決しました。



市議会HP
議会中継へ

予算決算特別委員会(9月21日~22日、24日)

決算審査(総務環境委員会)

新型コロナウイルス感染症の拡大は、人々の生活様式や価値観まで広く社会全体に多大な影響を与えており、特に、行政分野でのデジタル化・オンライン化の遅れといった課題も明らかとなりました。加えて自然災害の激甚化や頻発化、コロナ禍も相まって顕在化した課題に対しては、ウィズコロナ社会、ポストコロナ社会を見据えた事業執行の重要性等を大切な視点と捉え、新型コロナウイルス感染症対策やコロナ禍における事業の実施状況及び対応策についてを審査しました。主な質疑は以下のとおりです。

新型コロナウイルス総合窓口の開設

問 令和2年度の1万2千件を超える相談内容の特徴は。また、相談者からの声を市の施策にどのように反映させてきたか。

答 相談の多くは、事業者向けの給付相談で45%を占めている。次に多いものは個人向けの各種相談で約25%である。また、相談内容を毎日まとめて、半月ごとに分析し庁内でも共有した。その結果、課題となったものはその都度対応し、場合によっては補正予算を編成した。



道路沿線立木の伐採によるライフライン保全対策

問 道路沿線の伐採による立木調査は17路線、伐採は1路線30本とあるが、令和2年度から2年間の事業である。市民から継続を求める声もあるが、今後、継続する考えはあるのか。

答 伐採等は市の事業で行っているが、県・市・電力会社の3者で構成するライフライン保全対策会議を設け、住民の意見を聴取したり、パトロール中に発見した立木の対応を協議している。実施にあたっては、地域の要望を把握し引き続き継続されるよう県に要望する。



完了後